

## 心

「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」(箴言4:

23)

## 心の定義

人々は頭の中の脳が人間の考えや活動の中心であり指令器官であると一般に考えている。けれども聖書は心こそがその中心であり、「いのちの泉」である(箴4:23, ⇒ルカ6:45)と言っている。聖書が言う「心」は人間の知性と感情と意志の全部を含むものである(→マコ7:20-23注)。

(1) 心は知性の中心である。人々は心で知り(申8:5)、心で祈り(1サム1:12-13)、心で思う(詩19:14)。また神のこばを心に蓄え(詩119:11)、心で計画を練り(詩140:2)、神のこばを心に保つ(箴4:21)。人々は心で考え(マコ2:8)、心で疑い(マコ11:23)、心で思い巡らし(ルカ2:19)、心で信じ(ロマ10:9)、心で歌う(エペ5:19)。心ができるこれらのことはみな知性にもかかわっている。

(2) 心は感情の中心である。聖書は、喜ぶ心(出4:14)、愛する心(申6:5)、恐れる心(ヨシ5:1)、勇気ある心(詩27:14)、悔いる心(詩51:17)、心配する心(箴12:25)、怒る心(箴19:3)、生かされた心(イザ57:15)、苦悶する心(エレ4:9, ロマ9:2)、楽しむ心(エレ15:16)、悲しむ心(哀2:18)、へりくだった心(マタ11:29)、興奮し燃える心(ルカ24:32)、騒ぐ心(ヨハ14:1)について書いている。これらの心の行動はみな基本的に感情的性格のものである。

(3) 心は人間の意志の中心である。神のこばの中には、神を拒み神の命令に従うことを拒むかたくな心(出4:21)、神にゆだねきった心(ヨシ24:23)、何かを行おうとする心(Ⅱ歴6:7)、さらに主との関係を深めようとする心(Ⅰ歴22:19)、決意する心(Ⅱ歴6:7)、神から祝福を受けることを願う心(詩21:1-2)、神の律法に傾く心(詩119:36)、何かを行いたいと願う心(ロマ10:1)のことが書いてある。これらはみな人間の意志の行動である。

## 神から離れた人間の本性

Ⅱ アダムとエバが神の命令を無視し逆らって蛇の誘惑に従うことを選んで善悪を知る木の実を食べたとき、その決定は人間の心に最も破滅的な影響を及ぼした。その決定によって人間の心は悪の影響と自分勝手な願いとを受入れるようになり満たされるようになった。したがって「心に思った通りにしなさい」という忠告は善意のものであっても実際は良い忠告ではない。神から離れた人間の心が生まれつき暗い大変な状態にあることを聖書は示している。神の靈感を受けた預言者エレミヤのこばを見ると、「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう」(エレ17:9)とある。主イエスはこの真理を別のかたちで説明し、霊的に汚れること(神にふさわしくない)は儀式や儀礼律法に従わないからではなく、人間の心の中に深く刻まれている悪いものに引かれて従う思いだと言われた。それは「悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさ」(マコ7:21-22)などである。怒りの罪は殺人に等しく(マタ5:21-22)、情欲の罪は実際上の姦淫と同じ罪である(マタ5:27-28, →出20:14注, マタ5:28注)と言い、心の中で罪につながることの重大性についても教えられた。

悪を行うことにかたくなにこだわる心は神に向かってかたくなになる(完全に抵抗する)方向に進んでいる。神のこばを受入れ神の命令に従うことを拒み続ける人は重大な危険を犯している。その人々は自分勝手に行うことを神が許しておられることに気付いていない。その結果、神のこばと聖霊に対する感受性を失うことになる(→出7:3注, ヘブ3:8注)。聖書の中ではこのことを示す例として出エジプト(エジプトでの奴隷状態からの奇蹟的解放)のときのパロの心を挙げることができる(→出7:3, 13, 22-23, 8:15, 32, 9:12, 10:1, 11:10, 14:17)。

パウロはローマにいる信仰者を感化しようとしている多くの人の心の中にも同じかたくなな状態が見られると書いている(⇒ロマ1:24, 26, 28)。そしてそれはまた、世界の終りの反キリストの時代にも起こる心

霊的に再生した心

人間の心の罪深さに対する神の答は新生である。これは罪を心から悔い改め、信仰をもって神に心に向け、主イエスを罪を赦す方、人生を導く方として受入れる人々に与えられる。新生とは霊的に生まれ変わり、新しくされ、新しく生かされ、改革され、再開発された(全部新しくなるために必要な過程)心のことである(⇒「新生-霊的誕生と刷新」の項 p.1874)

(1) 新生は心が「新しく生まれ」ること(ヨハ3:3)である。心から罪をみな悔い改め、イエスは主であると告白する人は(ロマ10:9)霊的に「新しく生まれ」、神から新しい心を受ける(⇒詩51:10, エゼ11:19)。

(2) この霊的誕生を体験した人々の心の中に、神を愛し従いたいという願いを神は造り出される。神はたびたび、心から出てくる愛を言い表すことが必要だと神の民に明らかにされた(⇒申4:29注, 6:6注)。このように神を愛し献身することは神のことに従うことと一つである(⇒詩119:34, 69, 112)。神を愛することと忠実に従うことは車の両輪のようなものである(ヨハ14:15, 23, 11ヨハ2:5, 5:3)。主イエスは心から神を愛し、自分を犠牲にして隣人を愛することは神の律法全体を守ることだと教えられた(マタ22:37-40)。

(3) 心からの愛は神に従う上でなくてはならない部分である。けれどもしばしば欠けている部分でもある。神の民はしばしば外面的な宗教儀式(祭りの日、ささげ物、いけにえなど)を守ることで心からの純粋な愛の代りにしてきた(⇒イザ1:10-17, アモ5:21-26, ミカ6:6-8, ⇒申10:12注)。神に仕えたいという内面的な願いを伴わない外面的な活動は本当の愛でも献身でもない。むしろそれは見せ掛けでにせものであり、主イエスによって厳しく非難されたものである(⇒マタ23:13-28, ⇒ルカ21:1-4注)。

(4) 霊的に変えられた人の心の中にはさらに多くの霊的活動が起こる。心を尽して神を賛美し(詩9:1)、心の中でみことばを思い巡らし(詩19:14)、心から神に叫び(詩84:2)、心を尽して神を求め(詩119:2, 10)、心の中に神のことに蓄え(詩119:11, ⇒申6:6注)、心を尽して主に頼り(箴3:5)、心からほかの人々を赦し(マタ18:35)、神の愛が心の中に注がれるのを体験し(ロマ5:5)、心から神にささげ物をし(1コリ9:7)、心の中で神に賛美をし(エペ5:19, コロ3:16)、心からほかのキリスト者を愛する(1ペテ1:22)。そして何よりも心を尽して神を愛するようになる(マタ22:37, マコ12:30)。

